いきいきチャレンジ

愛知県名古屋市・特定非営利活動法人子ども&まちネット

障害のある子ども・若者の思春期を支援

独立行政法人福祉医療機構（WAM）が行う社会福祉振興助成事業（WAM助成）は、国庫補助金を財源とし、高齢者・障害者などが地域のつながりのなかで自立した生活を送れるよう、NPOやボランティア団体などが行う民間の創意工夫ある活動などに対し、助成を行っています。

今号では、WAM助成を活用した特定非営利活動法人子ども&まちネットの取り組みを紹介します。

「こどもにやさしいまちづくり」を目指して

愛知県名古屋市にある特定非営利活動法人子ども&まちネットは、平成12年の設立以来、「こどもにやさしいまちづくり」を目的に、子どもがきちんと「子ども期」を生き、まちづくりに参画しながら自分も他者も尊重できる社会づくりに取り組んできた。

主な活動としては、名古屋市内のUR団地内で乳幼児向けの子育てひろば事業「ワンストップひろば」の運営をはじめ、子どもたちの社会参画や自立に向けた体験づくりを行う「こどものまち事業」を実施。平成26年からは名古屋市青少年交流プラザの指定管理を受託し、子ども・若者の社会参画に向けた多様な講座やワークショップを開催している。

さらに、同法人が主体となり、障害児者の支援に携わる医師や学識者、特別支援に関わる教職員、福祉事業所の職員、保護者が集まり、障害のある子ども・若者に対する「性と生」の学びの場を提供する「STEPプロジェクト」を立ち上げ、学びをより深めるためのプログラムや教材の作成・提案に取り組んでいる。

障害児者の思春期支援に取り組む

同法人は、平成30年度のWAM助成を活用し、「障がいのある子ども・若者の思春期支援事業」を実施した。

同事業は、保護者や支援者、教員が障害のある子ども・若者の思春期における体と心の変化について、正しい知識や適切な対応ができる力を身につけることを目的に、①プロジェクト委員会の開催、②支援者向け集中研修、③教員向け研修、④テキスト（Study Book）の作成、⑤STEPサロンの開催などを実施した。

障害のある子ども・若者の思春期支援の必要性について、同法人副理事長・STEPプロジェクトリーダーの田中弘美氏は次のように語る。

「障害児者の支援制度が充実してきたことで、保護者以外にも療育や自立支援に関わる人や場面が増えています。しかし、保護者をはじめ支援に関わる人たちが障害のある子どもや若者に訪れる思春期の体や心の変化、性に対する正しい知識を学ぶ機会はほとんどなく、障害のある子ども・若者の第二次性徴によるさまざまな心身の変化に適切な対応ができず、本人たちの性の権利が侵害されたり、心身の健やかな発達を奪ってしまいかねない現状があります。性教育を受けてないため、なかには性犯罪に巻き込まれたり、本人にその気がなくても加害者になってしまうケースも少なくありません。そのため、障害児者の保護者や支援者、教員などに、思春期における

WAMから ひと言

障がいのある子ども・若者の思春期の支援は、必要性が高いもののなかなか取り組みが広がっていません。この分野に正面から取り組まれました。また、今事業で作成したStudy Bookを支援者や保護者、教員向けの研修で活用するほか、行政の担当課、教育委員会や関係機関などにも配布し、追加の要望が多く、増刷につながった点を評価しています。Study Bookの改訂や幅広く深い知識・経験を有する団体との連携などにより、支援がさらに広がることが期待されます。

この著作物は著作権法、国際条約およびその他の知的財産権に関する法律や条約によって保護されています。版権者（独立行政法人福祉医療機構）ならびに著作権者の許可を得ない複製（コピー）、再配布を、固くお断わりいたします。

心と体の変化について正しい知識を学ぶ機会と情報共有の場を提供し、寄り添いながら支援できる力を身につけてもらうことを目指しました」（以下「」内は田中副理事長の説明）。

事業の実施にあたっては、関係機関の専門職や有識者、教職員などで構成するＳＴＥＰプロジェクトでプロジェクト委員会を開催し、円滑な事業運営に向けた課題の把握や検討を行った。

支援者・保護者を対象に集中研修を開催

支援者向け集中研修では、障害のある子ども・若者の保護者や支援者を対象に、思春期に関する知識や対応についてのスキルを学び、正しく伝える力を身につけることで本人が体や心の変化を前向きに受け入れ、自己肯定感を高めるとともに性被害や加害の軽減につなげることを目的とした。

集中研修は「基礎研修」、「実践研修」、「フォローアップ研修」で構成し、福祉事業所の支援者や保護者などを中心に延べ１４２人が受講した。とくに支援者の障害児者に対する思春期支援への関心が高く、受講者全体の８割を占め、県外から受講する支援者も多かったという。

基礎研修のプログラムでは、産婦人科医を講師に医学的な体の変化や仕組み、妊娠・出産・避妊、性産業などについての正しい知識や情報を伝える講義をはじめ、学識者による講義では障害のある若者のセクシャリティや性の権利、当事者への寄り添った支援の方法などについて学んだ。

実践研修では、受講者を８グループに分け、各グループにプロジェクト委員のメンバーがファシリテーターとして入るかたちでグループワークを行い、「命の始まり～出産まで」、「自慰行為」、「避妊」などの要望の高いテー

UR団地内に開設する乳幼児向けの子育てひろば事業「ワンストップひろば」

障害のある子どもの保護者や支援者を対象にした支援者向け集中研修の基礎研修には延べ94人が参加

事業概要

平成30年度事業

特定非営利活動法人子ども＆まちネット

障がいのある子ども・若者の思春期支援事業

助成額 353万6千円

【事業概要】

障害のある子ども・若者に関わる支援者や保護者、教職員などが、障害児者の思春期の体と心の変化に対して、適切な対応ができる力を身につけることを目的に、支援者と教職員を対象にした各種研修を開催するとともに、相談対応や情報交換を行うサロンを運営する事業

【実施内容】

◆プロジェクト委員会の開催
関係機関の専門職や有識者、教職員などで構成するプロジェクト委員会を開催し、円滑な事業運営に向けた課題の把握や検討を行う

◆支援者向け集中研修
支援者や保護者が障害児者の体と心の変化について正しく伝え、対応することをできる力を身につけることを目的にした研修を開催

◆教員向け研修
教育現場では性教育に対して閉鎖的な傾向があり、思春期を迎えた子どもへの対応に悩みを抱える教職員が多いため、教員を対象にした研修を開催

◆テキスト（Study Book）の作成
プロジェクト委員会のメンバーが中心となり、各種研修で活用するテキストを作成

◆STEPサロンの開催
障害児者に関わる支援者・保護者を対象にした「STEPサロン」を毎月開催し、相談対応や情報交換のほか、支援ニーズの発掘につなげた

【成果】

◆支援者向け集中研修（基礎研修、実践研修、フォローアップ研修）には、支援者や保護者など延べ142人が受講した。とくに福祉事業所の支援者の受講が多く、あらためて思春期を迎えた障害児者に対する対応で悩みを抱えていることがうかがえた

◆教員向け研修には、特別支援に関わる教諭、養護教諭など27人が受講。学校で性教育を行う際の課題を共有するとともに、教職員間のネットワークづくりにもつながった

◆作成したテキストは、各種研修で活用するほか、行政の関係課や教育委員会、関係機関に配布した。テキストは好評で追加の要望が多く、増刷するに至った

障害のある子ども・若者の思春期支援という必要性が高いものの、なかなか取り組みが広がっていない分野を広く周知することにつながった

この著作物は著作権法、国際条約およびその他の知的財産権に関する法律や条約によって保護されています。版権者（独立行政法人福祉医療機構）ならびに著作権者の許可を得ない複製（コピー）、再配布を、固くお断わりいたします。

マに対して、これまで同法人が開催した勉強会などで使用した人体模型やＤＶＤなどの教材を用いて講座（授業）のプログラムを作成し、講義形式で発表した。発表後は講師からの評価を受け、アドバイスをもらいながら、受講者同士でプログラムの改善に向けて検討した。

「支援者向け集中研修は、保護者と支援者が一緒に学ぶことにより、正しい知識を習得するだけにとどまらず、保護者は集団生活のなかで対応しなくてはならない各事業所の事情や対応で困っていることを知り、支援者にとっても保護者のニーズや家庭環境などを知ることにつながりました。双方が抱えている悩みを互いに理解しあえたことは、今後の思春期支援をするうえでも大きな意味がありました」。

さらに、平成30年度末に開催した「フォローアップ研修」では、基礎研修と実践研修後に、受講者が各事業所等で実践した研修や勉強会などの取り組みを報告してもらい、参加者同士が情報共有しながら課題についての意見交換や、講師を交えた事例の検討を行った。

教職員向け研修を開催し実践例や課題を共有

特別支援学校や特別支援学級、通常学級などの教職員を対象にした「教員向け研修」は、特別支援に関わる教諭や養護教諭など27人が受講した。受講者は20～30歳代と比較的若い教職員の参加が多かったという。

「支援者や保護者を対象にした研修と分けて開催した理由としては、教育現場では性教育に対し、まだまだ閉鎖的な傾向があり、思春期を迎えた子ども・若者への対応に悩みや不安を抱えながらも孤独に対応している教職員が多くいます。そのため、性教育の必要性を感じている教職員間でネットワークをつくってもらい、すでに活動している学びの会等と連携し、思春期支援の講座を開催して教職員の不安解消や知識の向上、今後の性教育の普及を目指しました」。

教員向け研修のプログラムでは、プロジェクト委員のメンバーに教職員がいるため、性教育の実践例を紹介したほか、グループワークで教育現場で性教育の授業をする際の課題について検討した。

とくに課題となる内容については、「教職員間の性教育への意識の共有」、「学年や障害種別が異なる子どもに伝える内容」、「学習指導要領のなかに性教育が打ち出されていないため、授業時間を確保することの難しさ」などがあったという。

研修で活用するテキストを作成し関係機関に配布

各種研修で用いたテキスト「変わっていく思春期の『からだ』と『こころ』を大好きになる」は、プロジェクト委員のメンバーが中

実践研修では受講者をグループに分け、人体模型や教材を用いながら、さまざまなテーマの講座（授業）のプログラムを作成。講座形式で発表して講師からアドバイスを受けた

教職員を対象にした研修は27人が受講した

定期開催した「STEPサロン」（全9回）は、障害のある子どもの保護者や支援者などが集い、相談や情報交換の場として活用された

この著作物は著作権法、国際条約およびその他の知的財産権に関する法律や条約によって保護されています。版権者（独立行政法人福祉医療機構）ならびに著作権者の許可を得ない複製（コピー）、再配布を、固くお断わりいたします。

心となって作成しており、各種研修で活用するほか、行政の関係課や教育委員会、関係機関などに配布した。

作成したテキストは、障害のある子ども・若者の体と心の変化に関する医学的な基本知識をはじめ、若者のセクシャリティや性の権利、日本の性教育の現状・課題、当事者に寄り添った支援の考え方のほか、実際に当事者向けに性教育の勉強会を行った複数の事業所の実践レポートなどを掲載。事業所や教育現場で勉強会を開催するときや、対応に悩んだときにハンドブックとして活用することができる内容となっている。

そのほか、助成事業では障害のある子ども・若者の保護者や支援者等を対象にした「STEPサロン」（全9回）を毎月開催し、少人数で課題や困りごとを話し合う機会をつくることにより、きめ細やかな相談対応やアドバイスができる体制をつくった。STEPサロンは保護者や支援者など35人が利用し、障害のある子ども・若者の思春期における支援ニーズの発掘にもつながっているという。

性教育の実践に活かせるモデルづくりを構想

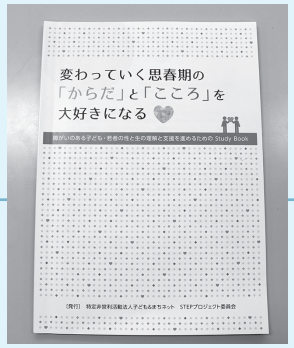
助成事業の成果として、支援の必要性が広く浸透するとともに、正しい知識や対応できるスキルをもつ支援者が増えることにつながった。

『支援者向け集中研修』、『教員向け研修』においては定員を超える申し込みがあり、あらためて障害のある子ども・若者の思春期における対応に悩みや不安を抱えていることがわかり、受講者からは『今後に活かしたい』という感想が多く寄せられました。また、作成したテキストは必要な情報をわかりやすくまとめたことで配布先からも高い評価を得て、追加の要望も多く増刷することになりました」。

今後の展望としては、福祉事業所や学校で性教育を行う際に参考となる複数のモデルをつくり、支援を広げていきたいとしている。

また、学校等で性教育の授業を行うためには、どんなに現場の教員や職員が必要性を感じていても、決定権をもつ管理職や経営層の意識を変えていかなければ実施することは難しいため、管理職や経営層に対するアプローチに取り組んでいくとしている。

障害のある子ども・若者の思春期支援という必要性が高いものの、支援が広がっていない分野に取り組む同法人の活動が全国に広がることが期待される。



助成事業で作成したテキスト「変わっていく思春期の『からだ』と『こころ』を大好きになる」。研修で活用したほか、行政の担当課、教育委員会、関係機関などに配布した

さらなる性教育の普及に取り組む

特定非営利活動法人子ども＆まちネット
副理事長／STEPプロジェクトリーダー　田中　弘美氏

平成30年度の助成事業では、障害のある子ども・若者の思春期支援に取り組むことにより、障害児者に関わる保護者や支援者、教職員に性教育の必要性を理解してもらうとともに、適切な対応ができるスキルを身につけてもらうことにつながったことは大きな成果となりました。

性教育は障害の有無に関わらず、人の自立には欠かせませんが、とくに障害のある人たちは情報を正確に理解することが難しく、適切な性教育を受けていないために、実際に性被害に巻き込まれたり、加害者になってしまうケースも少なくありませんので、保護者や支援者等がしっかりと導いていけるよう性教育をさらに普及させていきたいと考えています。

◆団体概要

〒464－0076
愛知県名古屋市千種区豊年町３－18
都通団地第１号棟111号室
TEL／FAX：052－768－5914
ＵＲＬ：http://www.komachi-111.com/
設　　立：平成12年６月
理 事 長：伊藤　一美

WAM助成
社会福祉振興助成事業に関するお問い合わせ

●NPOリソースセンター
NPO支援課（助成事業の相談・募集、NPOの融資相談等）
TEL：03-3438-4756　FAX：03-3438-0218（共通）
NPO振興課（助成事業の広報、事業評価等）
TEL：03-3438-9942　FAX：03-3438-0218（共通）

NPO等の民間福祉活動への応援よろしくお願いします！
当機構では寄付金を募集しています
お問合せ先：03-3438-0211（総務部総務課）

この著作物は著作権法、国際条約およびその他の知的財産権に関する法律や条約によって保護されています。版権者（独立行政法人福祉医療機構）ならびに著作権者の許可を得ない複製（コピー）、再配布を、固くお断わりいたします。